

くすりと健康のはなし

薬包紙

第140回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
理事
松本利恵

冬と言えば、風邪やインフルエンザの季節。その原因の80〜90%が約200種のウイルスによるものです。これらのウイルスは気温が低くなると活発になり、湿度が低いと空气中を漂う時間が長くなるため、寒くて、カラカラに乾いた冬に風邪を引きやすくなるのです。ちなみに、「夏風邪」の原因ウイルスとは異なります。

また、肺炎や扁桃炎、溶連菌感染症、副鼻腔炎などは、咳やのどの痛み、鼻水、発熱などの風邪と似た症状が出ますが、ウイルスではなく細菌が原因であることが多いです。こうした細菌が原因の症状は、抗生物質（抗菌薬）で改善します。しかし、風邪の原因となるウイルスには、抗生物質は効きません。

風邪をひいたからと抗生物質をもらいに病院に行っていないませんか。熱が下がったら途中で飲むのをやめたりしていませんか。似たような症状だからと、残っていた抗生物質を飲む（飲ませる）ことはありませんか。不適切な使い方により、その抗生物質が将来効かなくなる可能性があります。

抗生物質が効きにくくなる、または効かなくなった細菌を「耐性菌」と言います。耐性菌が増えると、抗生物質が

抗生物質が効かなくなる？耐性菌のおはなし

効かなくなり、感染症の治療が難しくなつて重症化しやすくなり、さらには死亡に至る可能性が高まります。耐性菌は人から人へ、また、人から環境へと拡散していくので、個人の問題ではなく国際的な脅威なのです。耐性菌による死亡者数は世界で年間70万人と報告されていますが、このまま何も対策を講じなければ、2050年には年間の死亡者数は1000万人を超え、がんによる予測死亡者数を上回ると予想されています。

そもそも、感染症にかからなければ抗生物質は不要です。新型コロナウイルス感染症で学んだ、手洗い、うがい、手指消毒、必要に応じたマスク着用の感染対策が重要です。感染症にかかり抗生物質を服用する際は、医師や薬剤師の指示を守つて、適切な量を適切な期間、服用するようにしてください。

**薬剤耐性を予防する
抗生物質の正しい飲み方**


- 医師や薬剤師の指示を守つて、適切な量を適切な時間に服用する（自己判断で飲むのをやめない）
- 残っていた薬を人にあげたり、もったりしない
- わからないことは
医師や薬剤師に相談する